

# 令和元年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立ひばりが丘中学校

## ●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	封筒の書き方(投稿先の名前と住所)	71.80%	全ての項目において、都や全国の割合を超えており、日頃の授業に対して前向きに取り組み、吸収できている。	封筒の書き方を丁寧に指導する必要がある。また、文章だけでなくグラフなどの情報を読み取れるよう、活動を取り入れる。相手の心情を読み取ったうえで自分の考えを書けるよう、指導したい。
	情報を正確に用いて具体例を書き加える。	83・90%		
	話し合いの流れを踏まえ自分の考えを書く。	72.40%		
算数・数学	連立二元一次方程式を解く	76.40%	全てにおいて、正答率は都・全国を上回っており良くできていた。少人数により、レベルに合った授業展開が出来ている。	説明問題に課題が残る。授業の中で考え方や解き方の発表や教え合い活動などを取り入れて進めていきたい。
	式やグラフを用いて説明する	13.20%		
	反例の説明	79.90%		
外国語 ※中学校のみ	メッセージを聞きアドバイスを書く	2.30%	リスニングの問題は授業の中でも解く機会を増やしていることから、聞き取る力については良い結果が出ている。また英文に即した語を入れる問題についても正解したものが多かった。	自分の考えや意見を英語で表現し、文法的に正確な英文で書く力を身につけることと、長文を読み内容を正確に把握する学習の機会を増やすことが今後の課題である。
	資料を読み自分の考えを書く	11.40%		
	二つのものを比較し自分の意見を書く	1.70%		

## ●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校第5学年・中学校第2学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	部首や意味の違いに注意して漢字を書く。	40.30%	全ての観点で正答率が、都や全国平均を上回っている。授業の中で自分の考えをまとめたり、発表したりする時間を確保することが、このような結果につながっていると考えられる。	全体としては、言語に関する知識・理解についての分野に課題が見られた。特に、漢字を読むことや書くことに課題が見られたため、間違えやすい漢字の提示や継続的に練習を行えるような授業をしていきたい。
	語句と語句のつながりを確かめながら文を読んだり書いたりす音読みや訓読みに注意して正しく読めるようにすること。	47.20%		
		61.80%		
社会	出来事の過程を理解する	23.95%	地理的分野は、雨温図の読み取りなどが高い正答率であり、資料を読み取る力は伸びてきていると考えられる。歴史的分野においても、資料を用いて思考することや、主体的に取り組もうとする意識は高いといえる。	資料の読み取りは、文化財に関する正答率が低いといった偏りがみられる。偏りを減らし、出来事はその背景や過程を含め理解するようにさせたい。また、複数の資料を関連付けて考察し、活用する技能を高めたい。
	資料と関連付けて捉える	42.10%		
	文化財の特徴を資料から読み取る	38.20%		
算数・数学	75° の作図方法	23.60%	全ての項目で都の平均を上回ることができ、特に「技能」では良い結果が表れていた。これは、習熟度別少人数授業によるきめ細やかな指導が、基礎・基本の定着につながっていると考えられる。	「数学的な見方・考え方」に関する問題の正答率が全体的に低かった。これを踏まえて、生徒に応用力を身につけさせるために、生徒の学力に適した授業を更に展開していきたい。
	比例のグラフの読み取り	24.30%		
	関係の表し方	31.70%		
理科	バネののびと力の関係を示す	18.80%	質量と重さの違いを表現できるが、切り口を変えるとよく理解できていないことが露呈された。また、直感や感覚にとらわれず、客観的に計算したり、論理的な思考が乏しいという傾向がわかった。	基本を表面的にししか理解していないことから低い正答率になったようである。基本を本質的に理解させるだけでなく、陥りがちなまちがいを指摘したり、応用力を培う問題演習が必要と思われる。
	質量と重さの区別を見いだす	25.00%		
	直列につないだときの力を求める	26.40%		
外国語 ※中学校のみ	質問に対して2文以上のまとまりのある英文で答える。	29.00%	全クラス、全ての観点において都の平均を上回ることができた。中でも外国語理解の能力において高い結果となった。これは授業の中で継続的にインプット量を確保している結果だと思われる。	他の観点に比べると、外国語表現の能力においてやや課題が見られる。つながりを意識した複数の文章からなるライティング活動に継続的に取り組んでいきたい。
	対話を聞き、応答として適切なものを答える。	33.10%		
	What+名詞で始まる疑問文の語順を理解する。	40.00%		